

# バイ資源の現状に関する調査

( 浅海増殖試験 )

清川智之

## 1 . 研究目的

バイ資源は全国的にみても有機スズが原因と考えられている雌の雄化(インポセックス)により、資源が大きく減少しているとされるが、本県でも漁獲が激減している。そのため、バイ資源の現状とインポセックスの状況を把握し、種苗生産や移植放流など、バイ資源の増大を図るための基礎資料とする。

## 2 . 研究方法

### (1) 漁獲量および漁獲物調査

バイの水揚げが確認されている地先漁協を中心に、漁獲量および漁獲物の買い取り調査を行い、雄化(インポセックス)の状況や、殻長組成調査による新規加入、再生産状況を調査した。

### (2) 採卵試験

各調査地点で得られた親貝を用いて採卵試験を行い、十分な採卵が可能かどうか検討した。

## 3 . 研究結果

### (1) 漁獲物および漁獲量調査

- 江津、益田の漁獲量は過去の水準より大きく低下していたが、平成10年頃から漁獲量の増加が認められている。殻長組成から、漁獲の中心は両者とも年齢3 + 以上と推定されたが、漁獲物への加入が開始される年齢2 + の漁獲個数は比較的安定しており、安定した加入、再生産が確認された。その他の地域では、漁獲量がないか、極めて少なかったため、漁獲量、および漁獲物の組成は把握できなかった。
- 得られた漁獲物を調査したところ、雌の雄化はほとんど確認されなかった。平成2年に実施した美保関町福浦の漁獲物調査では、得られた雌個体157個の全てに雄化が認められ、ほとんど採卵することができなかったが、この時の状況と比較すると格段に改善しているといえる。また、わずかに得られた雄化個体も、ペニスは小さく、しっかりした腹足口を有しており、また正常な雌と同等の産卵が確認されたことから、雄化の度合は極めて軽微と考えられた。

### (2) 採卵試験

- 雌1個体当たりの産卵数(カッコ内は卵のう数)は、平成15年度に益田市漁協から購入した個体では9,838粒(295個)、平成14年度に益田市から購入した個体では14,362粒(363個)、平成15年度に美保関町漁協から購入した個体では11,136粒(316個)であった。なお、平成15年度に美保関町漁協から購入した個体の中に2個のインポセックス個体があったが、これらについては17,336粒(422個)と、正常個体と比較して遜色ない産卵数が得られた。鳥取水試(梶川、1971)によれば、雌1個体当たりの産卵数は10,000粒程度とされており、今回の産卵数はこの結果と同等の産卵数であった。昭和46年の時点ではインポセックスは発生していない可能性が高いが、この時と同程度の産卵数が得られたことは、インポセックスの問題は少なくとも、江津、益田、美保関周辺の海域では改善されたものと判断できる。